



にぎわいを見せた歩行者天国

夜店まつりで商店街にぎわう 三新田まつり2017

7月22日と23日、きづくり商店街振興会（澁谷省一会長）主催による「元気ストリート2017」が木造地区の有楽町、千代町商店街で開催されました。

今年で9回目となるこのまつりは、木造の夏の夜を彩る風物詩として定着しています。歩行者天国として開放された路上では、ダンスパフォーマンスやジャズ演奏、マジックショーなど多彩なパフォーマンスが至る所で繰り広げられ、見物客を魅了しました。また、ビアガーデンや各種露店が軒を連ね、多くの市民らでにぎわっていました。

澁谷会長は「このにぎわいを商店街の活性化につなげられるよう、みんなで盛り上げていきましょう」と話していました。

多彩なイベントで大盛況 フラット夏まつり

7月30日、むらおこし拠点館活性化推進協議会（工藤嘉津彦会長）が主催する「フラット夏まつり」が行われ、市内外から訪れた大勢の家族連れなどでにぎわいました。

会場では、よさこい「AOMORI花嵐桜組」の演舞や「楽歌声の会」の歌謡ショーなどが観衆を魅了。フリスビーゲームやビンゴゲーム、盆踊りには多くの来場者が参加し、みんなでまつりを楽しんでいました。

また、この日は6月24日と25日に行われた日米かかし共同制作のコンテスト表彰式も開催。7月28日までに集まった約700の投票の結果、チーム「ドラえもん」の「がんばる農家さん」が金賞を受賞しました。



フリスビーゲームを楽しむ子どもたち



講演を聞く参加者

日本を巡る安全保障を考える

東北防衛局が主催する「第34回防衛セミナー」が7月29日、柏ふるさと交流センターで開催され、市民ら約300人が弾道ミサイル対策についての理解を深めました。セミナーでは、防衛省防衛政策局の飯島秀俊防衛政策課企画官と内閣官房副長官補付の田中賢二内閣参事官、航空自衛隊車力分屯基地の栗秋健士基地司令の3人が講師として登壇。田中内閣参事官は「Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達について」と題して、全国瞬時警報システム（Jアラート）の概要や弾道ミサイル落下時の行動などについて説明しました。有事の際は速やかな避難行動が重要だとした上で、「自治体などの訓練があれば積極的に参加してイメージをつかんでください」と呼びかけていました。

中学生が英語漬けのキャンプに挑戦

国際化に対応して夢を実現する人材を育成しようと「English Camp at つがる地球村2017」が8月1日、2日、1泊2日の日程で行われ、市内の中学生34人が英語でのコミュニケーションを体験しました。活動中はすべて英語でコミュニケーションするのがこのキャンプのルール。生徒たちは、テーマに沿った寸劇や市のPRポスターの作成・発表、ネイティブスピーカー（英語を母国語として話す人）との交流などに挑戦し、積極的に外国語と異文化を理解しようとしていました。

藤田夏瑠さん（木造中2年）は「去年も参加した経験を生かして積極的にできた。コミュニケーションが身に着いていると実感しています」と振り返っていました。



コーリー先生とコミュニケーションをとる生徒ら

メロンずらり、収穫体験ツアー

「メロン一坪地主」「メロン収穫体験ツアー」が今年も行われました。一坪地主は、関東圏を中心に全国の1,024人（1,736口）から申し込みがあり、7月下旬から地主の皆さんにつがるブランド認定メロンが発送されました。

8月3日から2泊3日で行われた収穫体験ツアーには、89人の応募から選ばれた20人の地主が参加。長谷川孝一さん（木造越水）の畑で、ずらりと実ったタカミメロンの中から、特に美味しそうなメロンを選び収穫を楽しんでいました。千葉から参加した青木真奈美さんは「青森にメロンの印象はありませんでしたが、送ってもらったメロンがすごくおいしかった。今日はいいメロンが採れました」と笑顔を見せていました。



収穫を楽しむツアー客



バケツいっぱいジャガイモを積む園児

じゃがいも畑に園児の歓声響く

木造菰槌地区の畑で8月3日、菰槌保育園（大橋登美子園長）としばた保育園（大橋金策園長）の園児や地元小学生ら約50人が、ジャガイモなどの収穫体験をしました。

これは、食育の一環として地産地消の良さを学んでもらおうと、同保育園の畑「ふれ愛農園」で毎年実施しているものです。農園を管理する吉岡志修さんから収穫の仕方を教わった子どもたちは、土の中に隠れたジャガイモを手探りで掘り起こし「あった！大きい！」などと歓声を上げながら、土の感触を楽しんでいました。しばた保育園の松山英里香ちゃん（6歳）は「ジャガイモを見つけるのが楽しかった。じゃがバターにして食べたいな」と楽しみにしていました。

木造高生が縄文遺跡をご案内

NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史理事長）が主催する亀ヶ岡遺跡まつりが8月19日、木造館岡地区で開催されました。木造高生のボランティアガイド12人が案内する「田小屋野貝塚ウオーク」には、JR東日本による「駅からハイキング」のツアー客を含め約90人が参加。生徒らが6月から準備してきたガイドやクイズを楽しみながら遺跡周辺を散策し、縄文文化への理解を深めていました。神奈川県から参加の金柄光俊さんは「見る機会がない発掘現場が印象的でした。ガイドもよく調べてあってわかりやすい」と満足げ。ガイドを務めた山谷紗友美さん（3年）は「お客さんが楽しそうに反応してくれたので、やりがいを感じながら案内できました」と振り返っていました。



田小屋野貝塚を案内する木造高生



やぐらを囲んで踊りを楽しむ参加者

やぐらを囲む交流の輪

8月19日、イオンモールつがる柏の駐車場で「つがる市盆踊り大会」が開催され、集まった約1,200人の市民らが交流の輪を広げました。

はじめに成田昭司実行委員長が「お盆の終わりに、皆さんで楽しく踊ってください」と開会のあいさつ。やぐらを中心に参加者が大きな輪を作り、盆踊りがスタートしました。やぐらの上では、市内外から参加した27団体が趣向を凝らした衣装で組踊りを披露。やぐらの下では、大人も子どもも二重三重の輪になって、柏音頭などの曲に合わせて踊りを楽しんでいました。

最後は、故人をしのび良い出来秋を祈る打ち上げ花火が大輪の花を咲かせ、来場者を魅了しました。